

- P1 株主のみなさまへ
- P3 営業の概況
- P4 成長戦略
- P5 完成・受注工事のご紹介
- P7 下期トピックス
- P9 耐震への取り組み
- P10 海外での事業展開
- P11 財務情報
- P13 株主様アンケート結果のご報告

トップメッセージ

株主のみなさまへ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、このたびの東日本大震災により亡くなられた方々に衷心よりお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

さて、当期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の我が国の経済は、個人消費や生産等が持ち直し、次第に足踏み状態から脱しつつありましたが、東日本大震災の影響により先行きの情勢を見極めることが困難な状況となりました。建設業界におきましては、公共工事の削減に加え、民間設備投資の停滞が続くなど、非常に厳しい状況となっております。

このような経営環境のもと、当期における当社グループの業績は、売上高4,527億円、営業利益60億円、経常利益74億円、当期純利益37億円となりました。建設受注高（個別）につきましては、建設投資の減少傾向が続く中、官公庁、民間工事ともに堅調に推移し、4,445億円と前期比12.1%の増加を達成することができました。

次期（平成23年4月1日～平成24年3月31日）は、平成21年4月に策定した「中期経営計画」の最終年度となります。ストック社会を見据えた建設ライフサイクルへの取り組み、重点分野の深耕、海外事業の強化等の実施施策を完遂するとともに、不動産事業及び環境事業に係る組織改編、関係会社の拡充などの追加強化策を実施していくことで、目標達成に向け前進してまいります。また、被災地域、お客様への支援につきましても、グループを挙げて取り組み、一日も早い復興に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

代表取締役社長

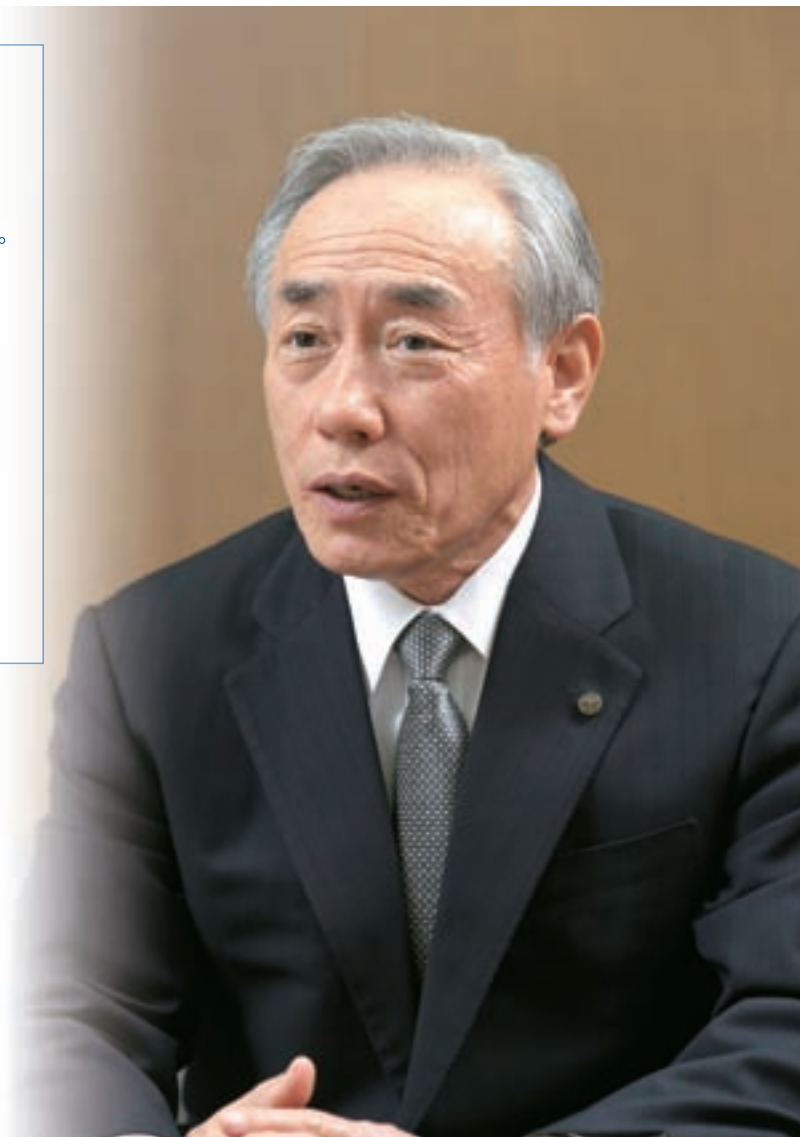


人がつくる。人でつくる。

ここで過ごす人々の姿を、
ここからはじまるしあわせをイメージしながら。

アイデアでつくろう。情熱でつくろう。
さまざまな人の想いをつないでつくろう。
アタマとココロを使って
人間にしかできないものづくりを目指して。

人がつくる。人でつくる。
それが戸田建設のやりかたです。



営業の概況

第88期決算情報

当連結会計年度(平成22年4月1日～平成23年3月31日)における当社グループの売上高は4,527億円と、前連結会計年度比4.7%減となりました。利益面につきましては、売上総利益率が6.8%と改善しましたが、売上高減少により営業利益は60億円(同6.3%減)となり、経常利益は74億円(同3.2%減)となりました。当期純利益につきましては、特別損失が減少したことにより、同18.9%増の37億円となりました。

なお、事業の種類別セグメントにおける業績は、以下のとおりとなっております。

■ 建築事業

売上高は3,595億円となり、セグメント利益は125億円となりました。

当社個別の受注高につきましては、民間工事(国内)、官庁工事(国内)ともに増加し、全体(海外含む)では3,623億円と、前期比11.0%増となりました。

■ 土木事業

売上高は842億円となり、セグメント損失は7百万円となりました。

当社個別の受注高につきましては、官庁工事(国内)が増加し、全体(海外含む)では822億円と、前期比17.2%増となりました。

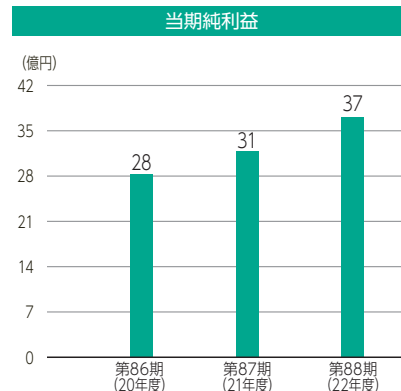
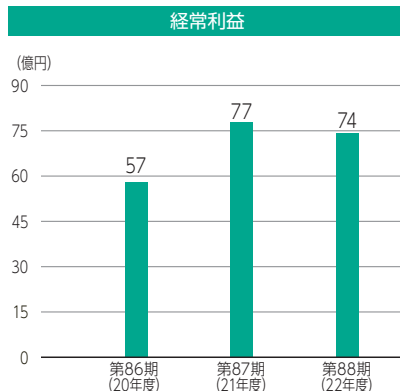
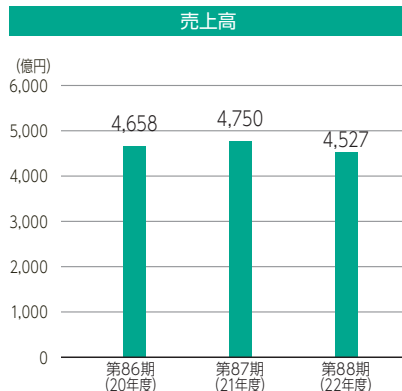
■ 不動産事業

賃貸ならびに建築事業および土木事業に付帯する販売を中心に事業を展開し、売上高は137億円、セグメント利益は18億円となりました。

■ その他の事業

子会社におけるホテル事業およびリース事業を中心に事業を展開し、売上高は12億円、セグメント利益は97百万円となりました。

財務ハイライト (連結)



成長戦略

計画の最終年度にあたって

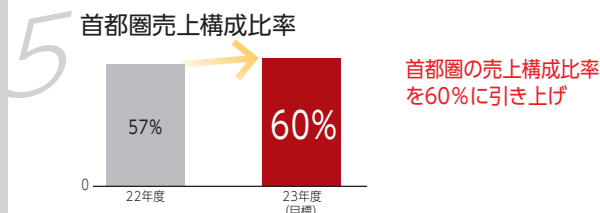
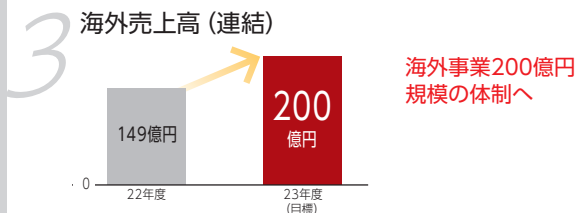
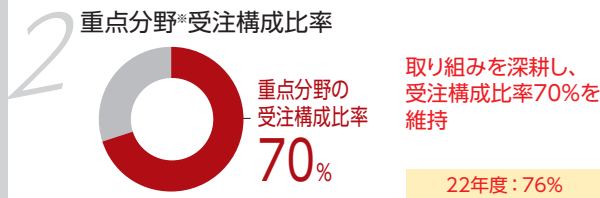
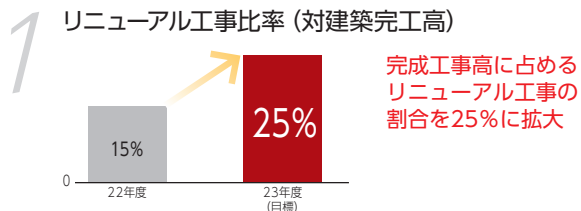
目標達成に向けて前進、強化策を実施

平成23年度は、中期経営計画（策定：平成21年4月）の最終年度にあたります。当社グループは本計画に基づき、各施策に取り組んでまいりました。しかしながら、厳しい環境の中、「連結売上高5,000億円、経常利益120億円」という業績目標を達成するのは難しい状況になっております。

計画の最終年度にあたっては「現在進行中の実施施策の完遂」「追加強化策の実施」を同時に推進していきます。これにより、建設ライフサイクルを通じて収益を確保し、収益を積み上げ、更なる成長の土台を構築してまいります。



実施施策の進捗状況



※重点分野 建築：医療・福祉施設、教育施設、事務所、生産施設
土木：都市インフラ (道路、鉄道、上・下水道)

完成・受注工事のご紹介

当社では、機能性や品質に優れ、安心・安全で、環境に配慮した建設物を実現することで、建設業としての企業の社会的責任を果たしています。当期における主な完成・受注工事をご紹介します。

(仮称) 有明南プロジェクト新築工事



工事名称 (仮称) 有明南プロジェクト新築工事
工事場所 東京都
発注者 有明南A特定目的会社
事業者 日本土地建物(株)、大和ハウス工業(株)
竣工月 平成23年1月
工事概要 S造 地上20階 地下1階
床面積71,281.69㎡
用途 事務所

(仮称) 荏原西地区小中一貫校新築工事



工事名称 (仮称) 荏原西地区小中一貫校新築工事
工事場所 東京都
発注者 東京都品川区
竣工月 平成22年9月
工事概要 S造・SRC造 地上6階 地下2階
床面積16,574.28㎡
用途 学校

■ 当期における主な完成工事

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| ・ 東洋海事工業(株) | (仮称) 汐留プロジェクト |
| ・ 蕨駅西口地区7番街区市街地再開発組合 | 蕨駅西口地区7番街区第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事 |
| ・ 社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部大阪府済生会 | 大阪済生会野江病院移転新築工事 |
| ・ 埼玉県 | 埼玉県本庁舎他耐震補強工事 |
| ・ 北海道開発局 帯広開発建設部 | 北海道横断自動車道 浦幌町 釧勝トンネル工事 |
| ・ 中国地方整備局 | 浜田・三隅道路塚ヶ原山トンネル工事 |

東京国際空港国際線地区旅客ターミナル等新築工事 (C工区)



工事名称 東京国際空港国際線地区旅客ターミナル等新築工事 (C工区)
工事場所 東京都
発注者 東京国際空港ターミナル (株)
竣工月 平成22年7月
工事概要 S造 地上3階
床面積11,925.16㎡
用途 空港

高速3号線Ⅲ期下部工事 (吉島西工区)



工事名称 高速3号線Ⅲ期下部工事 (吉島西工区)
工事場所 広島県
発注者 広島高速道路公社
竣工月 平成22年4月
工事概要 施工延長：L=302m
基礎工：鋼管ソイルセメント杭・中堀鋼管杭
：(L=29.5m~31.0m) 115本
橋梁下部工：張出式 (PC梁)
橋脚 (16.6m~19.1m) 9基
用途 道路

■ 当期における主な受注工事

- 任天堂 (株)
(仮称) N新社屋建設工事
- 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
東京都健康長寿医療センター新築工事
- 埼玉県
埼玉県立がんセンター新病院建設工事
- (学) 同志社
今出川キャンパス等整備事業 他
- 東日本旅客鉄道 (株)
神田万世橋ビル (仮称) 新築
- 合同会社 大阪市立大学学舎等整備センター
大阪市立大学理系学舎整備事業本体工事
- 東日本高速道路 (株)
東京外環自動車道田尻工事
- 東京都水道局
朝霞浄水場高度浄水施設 (二期) 築造工事
- 西日本高速道路 (株)
新名神高速道路箕面インターチェンジ工事

生物多様性の豊かな「里山」の創造的再生への取り組みと研究

現在施工中の明治大学黒川新農場（仮称）整備計画作業所において、絶滅危惧種・希少種の保全や、荒廃した森を生物多様性の豊かな里山環境に創造的に再生する活動を行っています。



- ①希少植物の保全（保護と移植）
- ②希少水生生物の保全（河川工事による水質汚濁の防止、生息環境の維持）
- ③外部からの生物の流入、流出の防止対策
- ④自然な地形を利用した明るく気持ちの良い里山型ビオトープ作り
また同時に、明治大学農学部 倉本宣教授と、生物とその周辺の生態系環境をモニタリング、研究することにより最適な環境創出の手法を確立していきます。

音声認識を用いた鉄筋検査システムを導入

当社は、(株)日鉄エレックスの協力のもと、音声認識を用いた鉄筋検査システムの運用を開始しました。音声認識技術を用いて鉄筋検査を実施するのは、建設業界では珍しい試みになります。日鉄エレックス社の音声認識技術をもとに、音声認識率の向上、チェックシート自動作成機能の開発など当社独自のカスタマイズを行い工事現場での使用を可能にすることで、鉄筋検査の効率化を図ることができるようになりました。



下期トピックス

10月

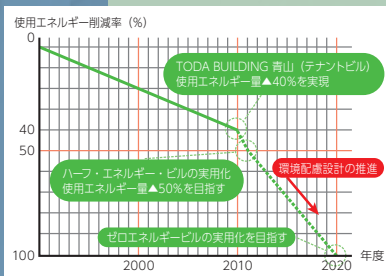
11月

12月

1月

戸田建設のZEB構想

2020年までのZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）実用化に向け、新たな施設構想を立案しました。日本では2009年に経済産業省が「ZEBの実現と展開に関する研究会」を設置し「2030年までに新築建物全体でZEB化を実現する」というビジョンを提言しました。当社はこのビジョンを受けて、2030年までに新築建物全体でZEB化を実現するためには、2020年にはパイロットモデルが必要と考え、同年にオフィスビルにてZEBの実用化を目指します。



「災害時における応急対策活動の協力に関する協定」を中央区と締結

当社は、本社が所在する東京都中央区との間で「災害時における応急対策活動の協力に関する協定」を締結し、災害時における自治体と企業の相互援助の体制を確立しました。

協定の概要は、災害発生直後から3日間の混乱期に、中央区の要請により、締結した企業が地域住民の救助活動や帰宅困難者に対する支援などの、応急対策活動に各企業の可能な範囲で協力するというものです。

フライパン型軽量LED投光器「エコパン」を開発!

当社と(株)あどQは、軽く丈夫で持ち運びが容易な防水型のLED投光器「エコパン」(商標登録申請中)を共同開発しました。当社ではこの「エコパン」を1月以降全国の低炭素施工システム(TO-MINICA)モデル作業所を中心とした作業所で順次使用を開始し、CO₂の排出量削減を進めています。



従来の白熱灯(リフレクターランプ)を使ったタイプの投光器に比べ、長寿命・エコ・経済性・持ち運びやすさ・設置しやすさなどで優れています。フライパン型のコンパクトな形状が特徴で従来型のものよりも軽量です。また、作業に合わせて移動させて使用することも可能です。

比較項目	従来型投光器	エコパン	差異
消費電力	300w	25w	-275w
電球寿命	2,000時間	40,000時間	38,000時間
CO ₂ 排出量	599.40kg	49.95kg	-549.45kg

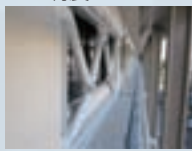
従来投光器とLED投光器の比較

2月

鋼管コッター+アドバンス制震システムによる耐震補強を初施工

当社施工の耐震補強工事において、(株)川金テクノソリューションが開発したアドバンス制震システムと当社開発済みの鋼管コッター工法を組み合わせた新工法を初適用しました。

執務を継続しながら低騒音・低振動・少粉塵で接合部の施工が可能で、かつ工期短縮も図れる優れた工法であることが実証できました。今後は靱性が高い4階建て以上の建物については、鋼管コッターを用いたアドバンス制震システムによる耐震補強工法を積極的に提案してまいります。



鉄骨柱

3月

「TODA BUILDING 青山」が竣工

当社が自社事業として推進してきました環境最先端テナントビル「TODA BUILDING 青山」が竣工を迎えました。企画・設計・施工・建物管理運営まで一貫して行うテナントビルです。建物供用後も定量的、定性的に省エネ技術の効果について検証し、環境技術の革新に役立ててまいります。

1. CO₂マイナス40%を実現

一般的な事務所ビルのエネルギー消費量に比べてマイナス40.9%のエネルギー量(CO₂排出量も40%削減)で運用することが可能

2. 50の環境技術、4つの先進技術を採用

- ①ダブルスキーンカーテンウォール部の透過型太陽光発電パネル
- ②システム天井を利用した輻射天井空調システム
- ③空調熱源としての地中熱の利用
- ④光ダクト

3. 低炭素施工システム(TO-MINICA)の実践
 工事中は「低炭素施工システム(TO-MINICA)」を実践し、同規模の作業所と比較しCO₂排出量を25%削減しました。



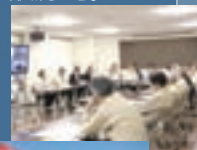
東日本大震災への対応について

当社は、3月11日14時46分頃発生した東北地方太平洋沖地震に対して、直ちに本社に災害対策統括本部を、東北・東京・千葉・関東・横浜・名古屋の各支店に現地災害対策本部を立ち上げ、社員の安否確認、稼働中作業所・竣工済み物件・得意先等の被災状況の調査を行いました。

その後も継続的に災害対策統括本部と各現地災害対策本部とをテレビ会議システムで結び、被災状況の確認や支援策の決定を行っています。

復旧・復興に向けた対応

- (1) 人的派遣(支援要員の派遣)
- (2) 救援物資の輸送
- (3) 建物・構造物の被害調査・応急対策
- (4) 復興対策室の設置
- (5) 節電対策 など



用語 低炭素施工システム(TO-MINICA)とは…独自開発のCO₂排出量速算システムを用いた施工方法。CO₂排出量を効率的に削減することが可能となる。鋼管コッター工法とは…低騒音・低振動・少粉塵の耐震補強工法。建物を使用しながらの工事が可能となる。

耐震への取り組み～天井耐震クリップ工法～

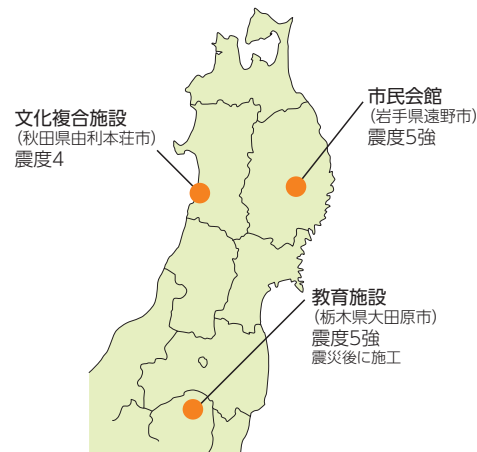
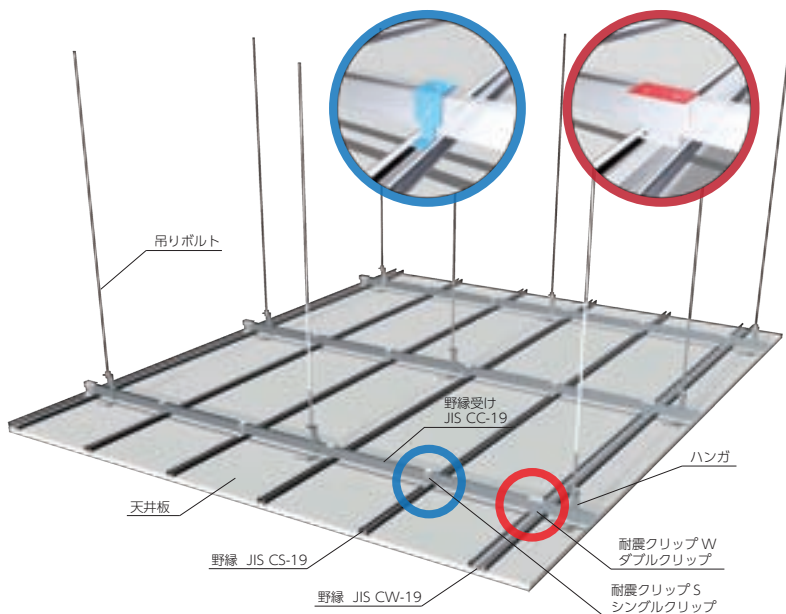
建築物の安心・安全にむけて

東日本大震災により、東日本各地で天井落下が多数発生しました。特に、体育館、ショッピングセンター、生産工場等の大規模な空間においては、建物本体への被害は少なかったものの天井などに被害が集中しました。下地や天井ボード等でつくられる天井においては、最も弱点と考えられるクリップが損傷し、天井ボードが連鎖的に脱落していることが様々な被害状況から確認できます。

現時点では、天井に関する具体的な法律の規定はなく、整備が急がれています。このような状況の中、当社は天井の落下防止対策として、接合部を補強するローコストでスピーディな「天井耐震クリップ工法」を開発しました。

まだ開発したばかりですが、東日本大震災においても東北地方で「天井耐震クリップ工法」を適用した天井に被害はなく、その効果の実証されています。震災後も、既に11件の建物で「天井耐震クリップ工法」が採用されています。

今後、当社では、天井の耐震対策として「天井耐震クリップ工法」を体育館や集会場などの公共建築物をはじめ大規模病院、ショッピングセンター、生産工場など様々な用途の建物に積極的に営業展開する予定です。



天井耐震クリップ工法採用事例
震度表示は平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の震度です。



耐震クリップ取り付け状況

用語 野縁(のぶち)とは…天井板や下地板を打ち付けるために、天井裏に設けられる骨組みのこと。

海外での事業展開

世界に広がるネットワーク

当社は収益体制再構築の重要施策の1つとして「海外事業の強化」を掲げており、2009年4月に海外事業部から国際支店へ組織の拡充を行いました。

当社の海外事業は主に3つの事業で展開しています。

1. 戸田建設が行っている「建設事業」です。日本政府による無償援助工事を中心に展開しています。
2. 連結子会社（戸田ブラジル、戸田上海、タイ戸田、戸田ベトナム）が行っている「建設事業」です。日系民間企業からの発注が中心ですが、ブラジルでは外資系民間企業・現地民間企業からの発注も多く頂戴しています。
3. 連結子会社（戸田アメリカ）が米国カリフォルニア州で行っている「不動産事業」です。

当社は、海外事業における次期の連結受注目標を200億円（当期実績約150億円）と決めました。既進出国において組織強化を実施し更なる市場拡大を目指すのはもちろんのこと、需要が望める地域へのシフト転換や新興国への新規展開など、今後更なる海外事業の充実を推し進めて参ります。



海外年表

1910年	日英博覧会 出品陳列館建設
1914年	パナマ運河開通記念 パナマ太平洋万国博覧会 日本出品陳列館建設
1972年	戸田ブラジル設立 戸田アメリカ設立
1987年	上海市で日系建設企業初の中国との合弁建設企業 上海住益戸田建設有限公司設立 (現在の戸田上海)
1988年	タイ戸田設立
2009年	海外事業部から国際支店に組織の拡充 戸田ベトナム設立
2010年	海外進出100周年 (施工実績34カ国)



アエスコン大学
(2010年竣工：ブラジル)



戸田ビルディング サンフランシスコ
(保有不動産：アメリカ)

連結損益計算書のポイント

(単位：億円)

実績	第87期 (21年度)	第88期 (22年度)
売上高	4,750	4,527
売上総利益	313	307
一般管理費	249	247
営業利益	64	60
営業外収支	13	14
経常利益	77	74
特別損益	△ 15	△ 4
税引前当期純利益	61	70
法人税等	29	32
当期純利益	31	37

Point 1

工事進行基準

前期より工事進行基準が原則適用されましたが、当期の建設事業全体の売上高、売上総利益に占める割合がそれぞれ76%、78%に達しました。

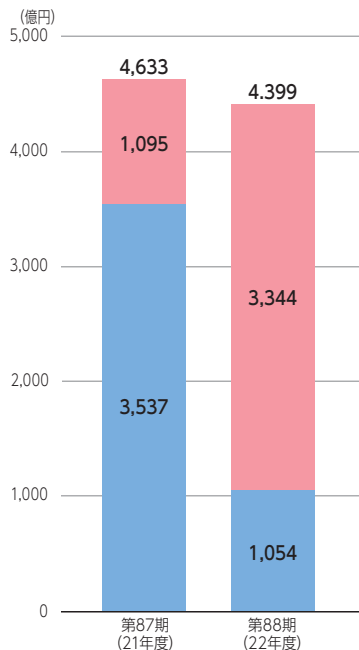
前期末の繰越高の減少（前々期末比500億円減少・個別）は当期の売上高が減少する要因となりますが、工事進行基準の適用による増収効果で当期の売上高の減少は223億円に止まりました。

Point 2

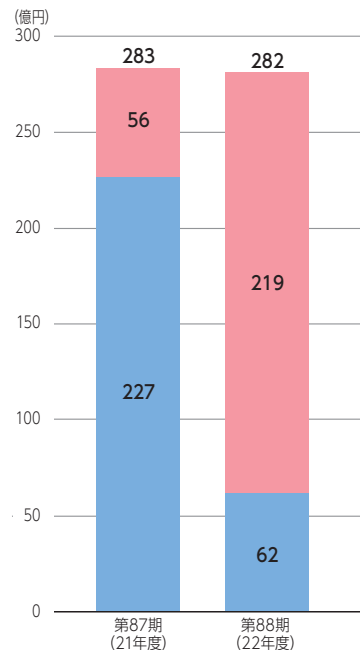
当期純利益の増加

前期と比べて売上総利益率は6.8%と改善しましたが、売上高が223億円減少したために営業利益段階で4億円、経常利益段階で3億円減少しました。当期純利益につきましては、特別損失が減少したことにより6億円増加しました。

完成工事高

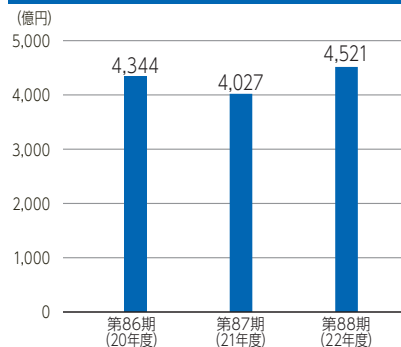


完成工事総利益

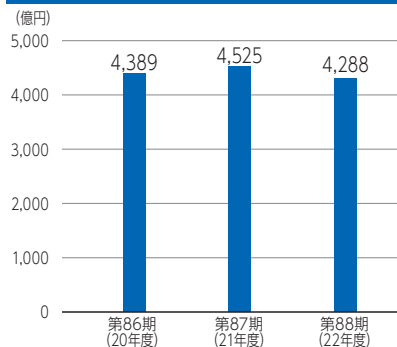


■ 工事完成基準 ■ 工事進行基準

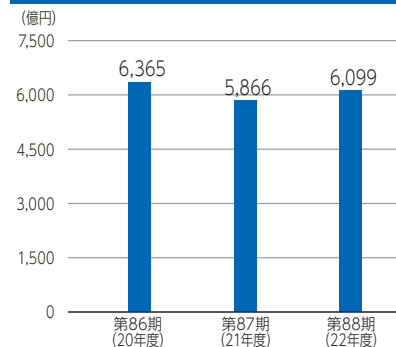
受注高 (個別)



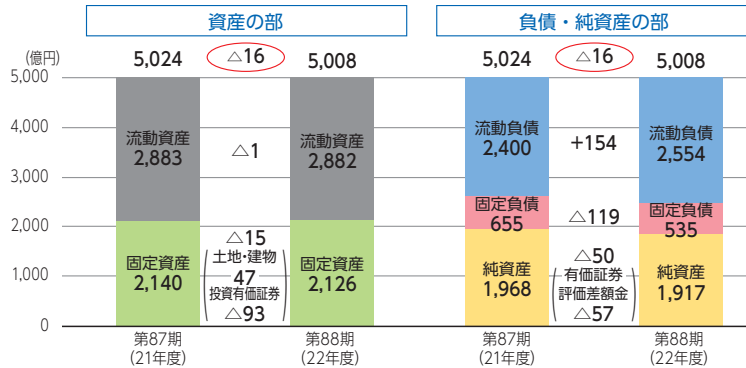
売上高 (個別)



繰越高 (個別)



連結貸借対照表のポイント



Point 3

不動産投資の継続

成長戦略の一環として、都心3区（千代田、中央、港）のテナントビルを中心に不動産投資を強化しております。当期は、環境最先端テナントビル「TODA BUILDING 青山」(港区・平成23年3月竣工)の建設など約47億円の不動産投資を行っております。

なお、当社グループが保有する賃貸不動産の当期における賃貸利益は29億円です。

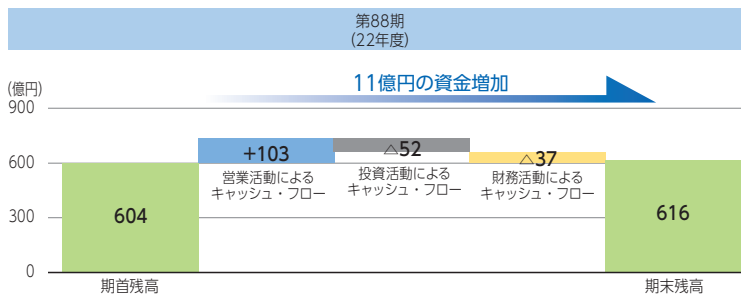
Point 4

保有株式の時価下落

前期に比して保有株式の時価が下落したことにより、固定資産に含まれる「投資有価証券」が前期末に比して93億円減少し、それに伴い、純資産に含まれる「有価証券評価差額金」も57億円減少しております。

【参考】日経平均株価：前期末 11,089円
当期末 9,755円

連結キャッシュ・フローのポイント



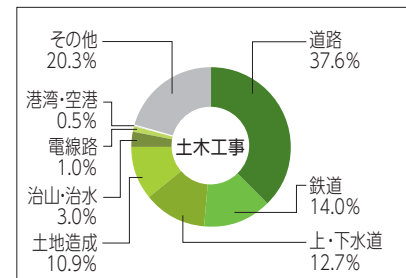
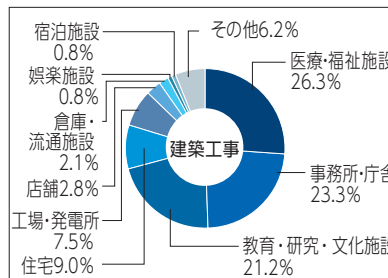
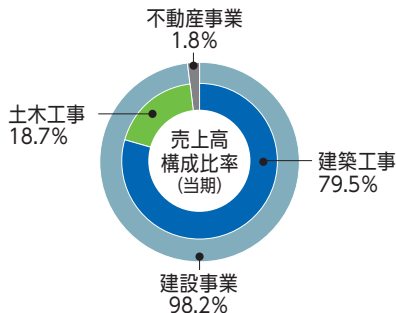
Point 5

連結キャッシュ・フローの状況

税引前利益が70億円となり、工事収支の入金超9億円、販売用不動産の売却による収入11億円などにより、営業活動は103億円の資金増加となりました。また、投資活動は不動産の取得47億円などにより52億円の資金減少、財務活動は借入金の返済14億円、配当金の支払い21億円などにより37億円の資金減少となりました。

その結果、当期における現金及び現金同等物は前期末に比べて11億円増加し、616億円となりました。

事業種別 売上高構成比率（個別）



株主様アンケート結果のご報告

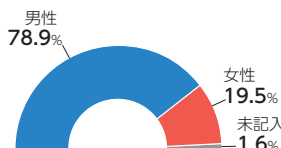
中間報告書と同封いたしました株主様アンケートにつきまして、たくさんの株主様にご協力を賜り、まことにありがとうございました。いただきました貴重なご意見は今後の経営やIR活動に活かして参ります。ここではアンケート結果の一部をご紹介しますとともに、株主の皆さまからの声にご回答申し上げます。

実施期間：2010年12月3日～2011年1月31日

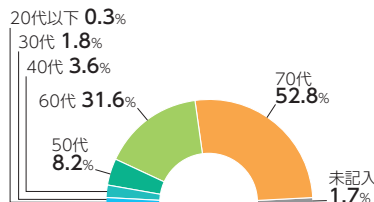
回答者数：1,327名

回答率：9.87%

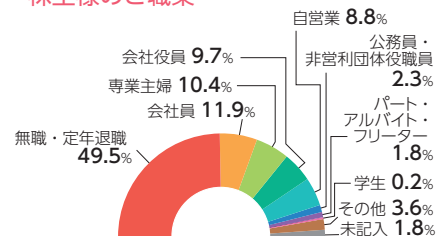
株主様の性別



株主様の年代



株主様のご職業



1

当社の第88期中間報告書に興味を引いたのはどのページですか？（いくつでも回答可）

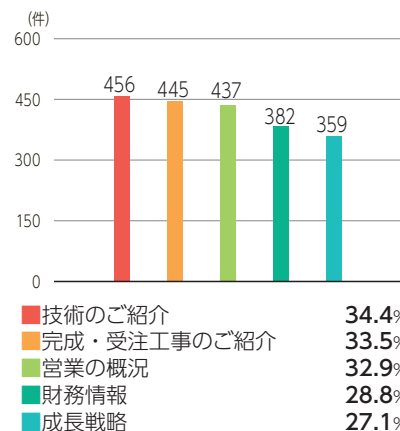
最も多かった回答は「技術のご紹介」、次いで「完成・受注工事のご紹介」、「営業の概況」でした。この結果を受け、今号でも「完成・受注工事のご紹介」に重点を置いています。

株主様の
声

「成長戦略のもっと具体的な内容（特に海外事業について）説明してほしい」

今までも、「成長戦略」のページの中で「海外事業の強化」について掲載してまいりましたが、今号ではご要望にお答えし「海外での事業展開（P10）」について1頁の特集を掲載しておりますので、是非ご一読下さい。

事業内容を一層ご理解頂けるようなコンテンツを今後も盛り込んでまいります。



Q

2

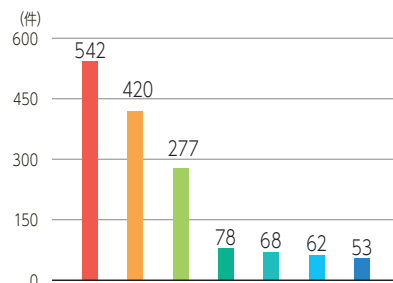
当社のIR活動について、特に充実を希望することは何ですか？(いくつでも回答可)

最も多かった回答は「株主向け情報誌」、次いで「事業報告書」の充実でした。株主の皆さまに一層ご理解頂けるよう、今後もIR活動を充実させてまいります。

株主様の
声

「もう少し文字サイズを大きくして、専門用語には解説をつけて欲しい」

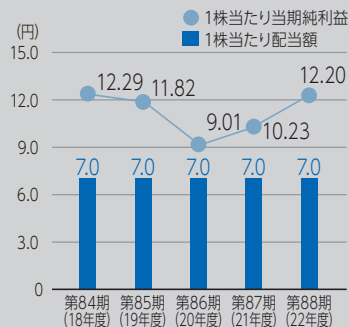
株主の皆さまに一層ご理解頂けるよう、今号より見やすいユニバーサルフォントを採用し、専門用語には解説をつけました。(P8、P9)
今後も事業報告書の充実だけではなく、ホームページの充実などに力を入れてまいります。



株主向け情報誌	40.8%
事業報告書	31.7%
ホームページでの情報提供	20.9%
会社説明会	5.9%
メールでの情報提供	5.1%
株主総会	4.7%
その他	4.0%

配当政策につきまして

当社は、株主の皆さまへの継続的な安定配当の実施と、競争力及び財務体質の強化に不可欠な内部留保の確保を勘案の上、業績及び経営環境に応じた利益配分を行うことを基本方針としております。当期の1株当たりの年間配当金につきましては、上記の方針を踏まえ、7円としております。また、次期につきましては、上記の方針を踏まえ、引き続き7円とすることを予定しております。



■ 会社概要

(平成23年3月31日現在)

● 主な事業所等

本店 (東京都中央区京橋一丁目7番1号)

支店

- ・ 東京支店 (東京都中央区) ・ 千葉支店 (千葉市)
- ・ 関東支店 (さいたま市) ・ 横浜支店 (横浜市) ・ 大阪支店 (大阪市)
- ・ 名古屋支店 (名古屋) ・ 札幌支店 (札幌市) ・ 東北支店 (仙台市)
- ・ 広島支店 (広島市) ・ 四国支店 (高松市) ・ 九州支店 (福岡市)
- ・ 国際支店 (東京都中央区)

技術研究所 (つくば市)

子会社

- ・ 戸田リフォーム株式会社 (東京)
- ・ シブコー工業株式会社 (東京)
- ・ 株式会社アベックエンジニアリング (埼玉)
- ・ 千代田建工株式会社 (東京)
- ・ 戸田道路株式会社 (東京)
- ・ 千代田土地建物株式会社 (東京)
- ・ 八千代アーバン株式会社 (東京)
- ・ 戸田ファイナンス株式会社 (東京)
- ・ 東和観光開発株式会社 (広島)
- ・ 千代田スタッフサービス株式会社 (東京)
- ・ アメリカ戸田建設株式会社
- ・ ブラジル戸田建設株式会社
- ・ 戸田建設工程 (上海) 有限公司
- ・ タイ戸田建設株式会社
- ・ ベトナム戸田建設有限公司

● 従業員の状況

従業員数 5,034名 (連結) 4,110名 (個別)

● 取締役および監査役 (平成23年6月29日現在)

取締役名誉会長	戸田 順之助	常勤監査役	戸田 守道
取締役相談役	戸田 守二	常勤監査役	戸内 藤博
代表取締役会長	加藤 久郎	監査役	鍛冶 治良
代表取締役社長	井上 舜三	監査役	増田 健一
代表取締役	白井 正幸	監査役	鈴木 勝利
代表取締役	岡 敏朗		
代表取締役	野村 昇		
取締役	戸田 秀茂		
取締役	山下 雅己		

- (注) 1: 監査役鍛冶治良氏、増田健一氏および鈴木勝利氏は、社外監査役であります。
2: 監査役鍛冶治良氏は東京証券取引所および大阪証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。

UD 戸田建設株式会社

〒104-8388 東京都中央区京橋一丁目7番1号
TEL. (03) 3535-1357
<http://www.toda.co.jp/>

戸田建設

検索



本報告書は、環境保全のため、植物油インキで印刷しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

■ 株式の状況

(平成23年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 759,000,000株
- 発行済株式の総数 322,656,796株
- 株主数 12,682名
- 大株主

株主名	持株数 (千株)
大一殖産株式会社	33,639
戸田順之助	31,022
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブ アカウント アメリカン クライアント	22,438
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	13,431
株式会社三菱東京UFJ銀行	11,496
戸田守二	11,355
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ユーエス タックス エグゼクティブ ペンション ファंड	8,563
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	7,286
株式会社みずほ銀行	7,107
三宅良彦	7,087

- (注) 1: 上記のほか当社所有の自己株式11,251千株があります。
2: 戸田守二氏の持株数は、戸田建設役員持株会における持分を含めた実質所有株式数を記載しております。

■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)
上場金融商品取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.toda.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。